



内令第七百三十三號

臨時魚雷艇訓練所規程中左ノ通改正ス

昭和十九年六月一日

海軍大臣 嶋田繁太郎

附則第一項中「指示ヲ受ケ」ヲ「區處ヲ承ケ」ニ改ム

(内令提要卷一、四一頁參照)

内令第七百三十四號

右本籍ヲ横須賀鎮守府ト假定ス

驅逐艦 縦

伊號第四百四潜水艦

第三十六號海防艦

第三十八號海防艦

第四十號海防艦

内令

八九七



警備官事

19. 6

1642



内令

八九八

右本籍ヲ吳鎮守府ト假定ス

第四十六號海防艦

驅逐艦 杉

伊號第三百七十二潛水艦

海防艦 大 東

第四十二號海防艦

第四十四號海防艦

第五十一號海防艦

驅逐艦 楨

第六十一號海防艦

右本籍ヲ佐世保鎮守府ト假定ス

右本籍ヲ舞鶴鎮守府ト假定ス

昭和十九年六月五日

海軍大臣 嶋田繁太郎

1643

内令第七百三十三號ノ二

第百八十七號驅潛特務艇

右本籍ヲ吳鎮守府ト定ム

昭和十九年六月三日

海軍大臣 嶋田 繁太郎

内令第七百三十三號ノ三

昭和十八年内令第八百三十三號別表中左ノ通改正ス

昭和十九年六月三日

海軍大臣 嶋田 繁太郎

佐伯防備隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第百七十七號(吳)」ノ次ニ「第百八十七號(吳)」ヲ加フ

(内令提要卷三、四八ノ三一頁参照)

内令第七百三十三號ノ四

第百三十號特設輸送艦

内令

八九七ノ二

1644

内令

八九七ノ三

右佐世保鎮守府所管ト定メラル

昭和十九年六月三日

海軍大臣 嶋田繁太郎

1645



内令第七百三十五號

特設監視艇隊編制中左ノ通改定セララル

昭和十九年六月五日

海軍大臣 嶋田繁太郎

第四監視艇隊ノ項中「有明丸」ヲ削ル

(内令提要卷二、一四三ノ一〇頁参照)

内令第七百三十六號

横須賀鎮守府所管

特設驅潛艇 俊鷹丸

同 白鴻丸

右舞鶴鎮守府所管ト改ム

昭和十九年六月五日

海軍大臣 嶋田繁太郎

内令

八九九

1646

内令

九〇〇

内令第七百三十七號

昭和十八年内令第二千五百六十六號別表中左ノ通改正ス

昭和十九年六月五日

海軍大臣 嶋田繁太郎

伊勢防備隊ノ項特設監視艇ノ欄「第十二興漁丸(横)」ノ次ニ「有明丸(横)」ヲ加フ  
第三南遣艦隊ノ項特設驅潛艇ノ欄「若竹丸(舞)」ノ次ニ「俊鷹丸(舞)、白鴻丸(舞)」ヲ加フ  
第八根據地隊ノ項ヲ削ル

(内令提要卷三、四八ノ二九頁参照)

内令第七百三十八號

艦艇類別等級別表中左ノ通改正ス

昭和十九年六月五日

海軍大臣 嶋田繁太郎

驅逐艦、一等松型ノ項中「桑」ノ下ニ「杉、楨、縦」ヲ加フ

1647

潜水艦、一等伊三百六十一型ノ項中「伊號第三百七十二」ノ下ニ、「伊號第三百七十二」ヲ、同伊四百型ノ項中「伊號第四百二」ノ下ニ、「伊號第四百四」ヲ加フ  
海防艦ノ部中占守型及御藏型ノ項ヲ左ノ如ク改ム

占守型	占守、國後、八丈、石垣、擇捉、松輪、佐渡、隠岐、壹岐、對馬、平戸、福江、天草、滿珠、干珠、笠戸
御藏型	御藏、三宅、淡路、能美、倉橋、屋代、千振、日振、大東、草垣、昭南
鷓來型	鷓來、沖繩、奄美、粟國

同第一號型ノ項中「第四十三號」ノ下ニ、「第五十一號、第六十一號」ヲ、同第二號型ノ項中「第三十四號」ノ下ニ、「第三十六號、第三十八號、第四十號、第四十二號、第四十四號、第四十六號」ヲ加フ

(内令提要卷三、三三頁参照)

内令

九〇二

1648

内令

九〇二

内令第七百三十九號

右佐世保鎮守府所管ト定メラル

昭和十九年六月七日

第三百三十三號特設輸送艦

海軍大臣 嶋田 繁太郎

○正 誤

本年内令第七百七號ハ衍

1649



内令第七百四十號

海軍電波本部處務規程申左ノ通改正ス

昭和十九年六月八日

海軍大臣 嶋田繁太郎

第六條中第十號ヲ第十一號、第十一號ヲ第十二號トシ同條第九號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

十 電波本部製圖工場ノ勞務及取締ニ關スルコト

第八條中第四號ヲ第五號トシ以下順次繰下ゲ同條第三號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

四 電波本部製圖工場工具ノ給與及同工場用材料物品ノ準備ニ關スルコト

第十二條中第七號ヲ第八號トシ同條第六號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

七 電波本部製圖工場ノ所掌事項ニ關スルコト

(昭和十九年内令第五百六十七號參照)

内令第七百四十一號

艦艇類別等級別表中左ノ通改正ス

内令

九〇三

1650

内令

九〇四

昭和十九年六月十日

海軍大臣 嶋田繁太郎

軍艦、巡洋艦二等ノ部中夕張ノ項ヲ削ル

驅逐艦、一等初雪型ノ項中「天霧」「雷、電」ヲ、同不知火型ノ項中「秋雲」ヲ削ル

潜水艦、一等伊二型ノ項中「伊號第二、」ヲ、同伊十七型ノ項中「伊號第三十二」ヲ、同伊百六

十八型ノ項中「伊號第百六十九、」ヲ、伊號第百七十四」ヲ削ル

掃海艇、第七號型ノ項中「第七號、」ヲ削ル

敷設艇ノ部中「鷗」ヲ削ル

(内令提要卷三、三三頁参照)

内令第七百四十二號

特務艇類別等級別表中左ノ通改正ス

昭和十九年六月十日

海軍大臣 嶋田繁太郎

特務艇、驅潛特務艇第一號型ノ項中「第百九十五號」ノ下ニ「第百九十六號、第百九十七號、第

百九十八號、百九十九號、第二百號、第二百一號、第二百二號、第二百三號、第二百四號、第二百五號、第二百六號、第二百七號、第二百八號、第二百九號、第二百十號、第二百十一號、第二百十二號、第二百十三號、第二百十四號、第二百十五號」ヲ加フ

(内令提要卷三、四三頁參照)

○正誤

本年内令七百三十一號(八百九十五頁)本文一行目「海軍施設部ソ下ニ教導」ヲ加フ

内令

九〇五

1652



内令第七百四十三號

驅逐隊編制中左ノ通改定セラル

昭和十九年六月十日

海軍大臣 嶋田繁太郎

第六驅逐隊ノ項ヲ削ル

第十驅逐隊ノ項中「秋雲」ヲ削ル

第十九驅逐隊ノ項中「天霧」ヲ削ル

(内令提要卷一、六八頁参照)

内令第七百四十四號

潜水隊編制中左ノ通改定セラル

昭和十九年六月十日

海軍大臣 嶋田繁太郎

第七潜水隊ノ項中「伊號第二」ヲ削ル

内令

九〇七

1653

第十二潜水隊ノ項中「伊號第六十九、伊號第七十四、」ヲ削ル  
第十五潜水隊ノ項中「伊號第三十二、」ヲ削ル

(内令提要卷一、七〇頁参照)

内令第七百四十五號

特設掃海隊編制中左ノ通改定セラル

昭和十九年六月十日

海軍大臣 嶋田 繁太郎

第二十七掃海隊ノ項ヲ削ル

(内令提要卷一、一五一頁参照)

内令第七百四十六號

佐世保鎮守府警備敷設艇

敷設艇 鷗

右役務ヲ解カル

1654

右帝國軍艦籍ヨリ除カル

右帝國驅逐艦籍ヨリ除カル

横須賀鎮守府在籍

軍艦 夕張

横須賀鎮守府在籍

驅逐艦 雷

驅逐艦 電

驅逐艦 秋雲

吳鎮守府在籍

驅逐艦 天霧

横須賀鎮守府在籍

伊號第二潜水艦

吳鎮守府在籍

伊號第三十二潜水艦

内令

九〇九

1655

内令

九一〇

右帝國潛水艦籍ヨリ除カル

伊號第百六十九潛水艦  
伊號第百七十四潛水艦

右帝國掃海艇籍ヨリ除カル

佐世保鎮守府在籍  
第七號掃海艇

右帝國敷設艇籍ヨリ除カル

佐世保鎮守府在籍  
敷設艇 鷗

昭和十九年六月十日

海軍大臣 嶋田繁太郎

内令第七百四十七號

右本籍ヲ舞鶴鎮守府ト定メラル

驅逐艦 檜

1656



右本籍ヲ吳鎮守府ト定メラル

吳鎮守府在籍

海防艦 八十島

右警備海防艦ト定メラル

海防艦 八十島

右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定メラル

佐世保鎮守府在籍

第三十八號掃海艇

右警備掃海艇ト定メラル

第三十八號掃海艇

昭和十九年六月十日

海軍大臣 嶋田繁太郎

内令第七百四十八號

第百六十六號驅潛特務艇

右本籍ヲ舞鶴鎮守府ト定ム

内令

九二一

(前送ノ分ト引替舊紙ハ燒却相成度)

1657



内令

九二二

昭和十九年六月十日

海軍大臣 嶋田繁太郎

内令第七百四十九號

昭和十八年内令第八百三十三號別表中左ノ通改正ス

昭和十九年六月十日

海軍大臣 嶋田繁太郎

舞鶴防備隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第百六十二號(舞)」ノ次ニ「第百六十六號(舞)」ヲ加フ  
第六十五警備隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第四十六號(舞)」ヲ削ル  
第八十一警備隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第三十八號(鎮)」ヲ削ル

(内令提要卷三、四八ノ二一頁参照)

内令第七百五十號

第四十六號驅潛特務艇

右本籍ヲ舞鶴鎮守府ト定メタル處之ヲ解ク

1658



第三南遣艦隊ノ項特設驅潛艇ノ欄「白鴻丸(舞)」ノ次ニ「昭代丸(舞)、瑞鳳丸(舞)」ヲ加フ  
 第三十根據地隊ノ項特設監視艇ノ欄「水天丸(吳)」ヲ削ル  
 第四十一警備隊ノ項特設敷設艇ノ欄「民星丸(横)」ヲ削ル

(内令提要卷三、四八ノ目九頁參照)

内令第七百五十二號

右特設捕獲網艇トシ吳鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク	汽船	博丸
右特設敷設艇トシ横須賀鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク	同	民星丸
右特設驅潛艇トシ佐世保鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク	同	陵水丸
右特設監視艇トシ吳鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク	漁船	水天丸
右特設運送船(給糧船)トシ横須賀鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク	汽船	札幌丸

内令

汽船	船名	特設艦船種別	所管
同	昭代丸	特設驅潛艇	舞鶴鎮守府
	瑞鳳丸		

内令第七百五十三號  
 左ノ船舶ヲ特設艦船トシ其ノ種別及所管ヲ左ノ通定ム  
 昭和十九年六月十日  
 海軍大臣 嶋田繁太郎

右特設運送船(給炭油船)トシ吳鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク  
 同 廣隆丸  
 右特設運送船(雜用船)トシ横須賀鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク  
 同 長田丸  
 昭和十九年六月十日  
 海軍大臣 嶋田繁太郎

1661

内令

内令第七百五十四號

九一六

右本籍ヲ横須賀鎮守府ト假定ス

右本籍ヲ吳鎮守府ト假定ス

第百九十七號驅潛特務艇

第百九十八號驅潛特務艇

第百九十九號驅潛特務艇

第百一十號驅潛特務艇

第百一十一號驅潛特務艇

第百一十二號驅潛特務艇

第百一十三號驅潛特務艇

第百九十八號驅潛特務艇

第百九十九號驅潛特務艇

第百一十四號驅潛特務艇

第百一十五號驅潛特務艇

1662

右本籍ヲ佐世保鎮守府ト假定ス

第二百號驅潛特務艇

第二百一號驅潛特務艇

第二百五號驅潛特務艇

第二百七號驅潛特務艇

第二百四號驅潛特務艇

第二百十號驅潛特務艇

右本籍ヲ舞鶴鎮守府ト假定ス

第九十六號驅潛特務艇

第二百三號驅潛特務艇

第二百十二號驅潛特務艇

右本籍ヲ大湊警備府ト假定ス

昭和十九年六月十日

海軍大臣 嶋田 繁太郎

内令

九二七

1663

内令

九一八

内令第七百五十五號

海軍氣象部修技所規則左ノ通定ム

昭和十九年六月十二日

海軍大臣 嶋田繁太郎

海軍氣象部修技所規則

水路部修技所規則（附則第一項ノ規定ヲ除ク）ヲ準用ス

（昭和十九年達第四百四十三號参照）

内令第七百五十六號

昭和十八年内令第二千九百九十四號別表中左ノ通改正ス

昭和十九年六月十三日

海軍大臣 嶋田繁太郎

備考ニ左ノ一號ヲ加フ

三 東京高等商船學校又ハ神戸高等商船學校ニ配屬ノ武官ハ夫々第三短期高等海員養成所又ハ第四短期高等海員養成所配屬ヲ兼務スルモノトス

1664



内令第七百五十七號

昭和十八年内令第八百三十三號別表中左ノ通改正ス

昭和十九年六月十三日

海軍大臣 嶋田繁太郎

佐伯防備隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第百六十五號(吳)」ノ次ニ「第百六十七號(吳)」ヲ加フ

(内令提要卷三、四八ノ二一頁参照)

内令第七百五十八號

右本籍ヲ吳鎮守府ト定ム

昭和十九年六月十三日

海軍大臣 嶋田繁太郎

第百六十七號驅潛特務艇

内令第七百五十九號

右本籍ヲ横須賀鎮守府ト定メラル

昭和十九年六月十四日

海軍大臣 嶋田繁太郎

伊號第三百六十四潛水艦

内令

九一九

1665



内令

九二〇

内令第七百六十號

一式二號轉輪羅針儀教範別冊ノ通定ム

別冊ハ海軍文庫ヲシテ所要ノ向ニ之ヲ配付セシム

昭和十九年六月十四日

海軍大臣 嶋田繁太郎

1666

内令第七百六十一號

戰鬪訓練規則草案中別紙ノ通改正ス

別紙ハ海軍省教育局長ヲシテ所要ノ向ニ配付セシム

昭和十九年六月十五日

海軍大臣 嶋田繁太郎

内令

九二二

1667



内令第七百六十二號 (所要ノ向ニ配付ス)

内令第七百六十三號

右本籍ヲ舞鶴鎮守府ト定ム

第七百七十二號驅潛特務艇

第八百八十一號驅潛特務艇

右本籍ヲ大湊警備府ト定ム

昭和十九年六月十五日

海軍大臣 嶋田繁太郎

内令第七百六十四號

昭和十八年内令第八百三十三號別表中左ノ通改正ス

昭和十九年六月十五日

海軍大臣 嶋田繁太郎

舞鶴防備隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第百六十六號(舞)」ノ次ニ「第七百七十二號(舞)」ヲ加フ

内令

九二五

1668

大湊防備隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第八十一號(大)」ノ次ニ「第百八十一號(大)」ヲ加フ

(内令提要卷三、四八ノ二一頁参照)

内令第七百六十五號

右本籍ヲ吳鎮守府ト定ム

自魚雷艇 第二百十四號隼艇  
至魚雷艇 第二百二十五號隼艇

右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定ム

自第八百三十一號魚雷艇  
至第八百四十八號魚雷艇  
自魚雷艇 第一百一號隼艇  
至魚雷艇 第一百六號隼艇

右本籍ヲ舞鶴鎮守府ト定ム

自第五百二十九號魚雷艇  
至第五百三十七號魚雷艇

昭和十九年六月十五日

海軍大臣 嶋田繁太郎

内令第七百六十六號

魚雷艇 第六十五號準艇

魚雷艇 第六十六號準艇

右本籍ヲ吳鎮守府ト定メタル處之ヲ解ク

第四百六十八號魚雷艇

第四百六十九號魚雷艇

第四百九十一號魚雷艇

第四百九十二號魚雷艇

右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定メタル處之ヲ解ク

昭和十九年六月十五日

海軍大臣 嶋田繁太郎

内令

九二七

1670

内令

九二八

内令第七百六十七號

第一百五號特設輸送艦

第一百五十三號特設輸送艦

右吳鎮守府所管ト定メラル

昭和十九年六月十五日

海軍大臣 嶋田繁太郎

1671

179

内令第七百六十八號

左ノ船舶ヲ特設艦船トシ其ノ種別及所管ヲ左ノ通定ム

昭和十九年六月十五日

海軍大臣 嶋田繁太郎

船舶名	特設艦船種別	所管
汽船 第三共榮丸	特設運送船(給油船)	佐世保鎮守府

内令

九二九

職費金

職費金

19. 6. 28

職費金

1672

内令第七百六十八號 (後送ス)

内令第七百六十九號

海軍航空隊ノ所管、名稱及所在地又ハ原駐基地ノ件申左ノ通改正セラレ

昭和十九年六月十五日

海軍大臣 嶋田繁太郎

左ノ地ニ海軍航空隊分遣隊ヲ置ク部中霞ケ浦海軍航空隊東京分遣隊ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ

横須賀海軍航空隊大分分遣隊 大分縣大分市

(内令提要卷一、三〇ノ三九頁参照)

内令第七百七十號

特務艇類別等級別表中左ノ通改正ス

昭和十九年六月十五日

海軍大臣 嶋田繁太郎

内令

九三一

1673



特務艇、魚雷艇第四百六十八號型ノ項中「、第四百六十八號、」ヲ、同四百六十九號型ノ項中「第四百六十九號、」ヲ削リ同項中「第五百號」ノ下ニ「、第五百二十九號、第五百三十號、第五百三十一號、第五百三十二號、第五百三十三號、第五百三十四號、第五百三十五號、第五百三十六號、第五百三十七號」ヲ、同「第八百三十號」ノ下ニ「、第八百三十一號、第八百三十二號、第八百三十三號、第八百三十四號、第八百三十五號、第八百三十六號、第八百三十七號、第八百三十八號、第八百三十九號、第八百四十號、第八百四十一號、第八百四十二號、第八百四十三號、第八百四十四號、第八百四十五號、第八百四十六號、第八百四十七號、第八百四十八號」ヲ加ヘ同第四百九十一號型ノ項之、同十號集型ノ項中「、第六十五號、第六十六號」ヲ削リ同二十七號集型ノ項中「第二百十三號」ノ下ニ「、第二百十四號、第二百十五號、第二百十六號、第二百十七號」ヲ、同七十四號集型ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

百一號集型	第百一號、第百二號、第百三號、第百四號、第百五號、第百六號、第百十八號、第百二十九號、第百二十號、第百二十一號、第百二十二號、第百二十三號、第百二十四號、第百二十五號
-------	---

(内令提要卷三、四三頁参照)

内令第七百七十一號

昭和十八年内令第十一號航空基地管理ニ關スル件中左ノ通改正ス

昭和十九年六月十五日

海軍大臣 嶋田繁太郎

大分航空基地ノ項中「宇佐海軍航空隊」ヲ「横須賀海軍航空隊」ニ改ム

(内令提要卷一、三〇ノ四一頁参照)

○正誤

本年内令第七百四十九號中「第百五十七號(舞)」ハ「第百六十二號(舞)」ノ誤

内令

九三三

1675

内令第七七二號

右本籍ヲ横須賀鎮守府ト定メラル

昭和十九年六月十六日

驅逐艦 樫

海軍大臣

内令第七七三號

昭和十六年内令第千二百二十三號海軍航空廠ノ分工場ヲ置ク地等ノ件中左ノ通改正ス

本令ハ昭和十九年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十九年六月十九日

海軍大臣

三重縣河藝郡 第二海軍航空廠鈴鹿分工場

東京郡硫黃島 第二海軍航空廠硫黃島分工場

三重縣河藝郡 第二海軍航空廠鈴鹿分工場

ニ改ム

(内令提要卷一、三〇ノ二四頁参照)

内令第七七四號

昭和十五年内令第六百四十六號特設海軍工作部等ノ所掌區分等ノ件中左ノ通改正ス

昭和十九年六月二十日

海軍大臣

「第二十五海軍建設部」ヲ「第二十六海軍建設部」ニ改ム  
「第二十六海軍建設部」ヲ「第二十七海軍建設部」ニ改ム  
(内令提要卷一、三八ノ五四ノ二頁参照)

内令第七七五號 (後送ス)

内令第七七六號

昭和十八年内令第千八百三十三號別表中左ノ通改正ス

昭和十九年六月二十日

海軍大臣

第二十六特別根據地隊ノ項掃海特務艇ノ欄「第百五號(佐)」ノ前ニ「第三號(吳)」ヲ加フ

第四警備隊ノ項掃海特務艇ノ欄「第三號(吳)」ヲ削ル

(内令提要卷三、四八ノ二二頁参照)

内令第七七七號

昭和十八年内令第千五百六十六號別表中左ノ通改正ス

昭和十九年六月二十日

海軍大臣

舞鶴防備隊ノ項特設捕獲網艇ノ欄「紀進丸(舞)」ヲ削ル  
紀伊防備隊ノ項特設驅潛艇ノ欄「富士丸(吳)」ヲ削ル  
第六艦隊ノ項特設捕獲網艇ノ欄ニ「第一號桐丸(佐)、朝輝丸(佐)、紀進丸(舞)」ヲ、特設驅潛艇ノ欄「海雲丸(吳)」ノ次ニ「富士丸(吳)」ヲ加フ

内 令

九三五

1676

羅津方面特別根據地隊ノ項特設捕獲網艇ノ欄(第一號桐丸佐)、  
朝輝丸(佐)ニヲ削ル

(内令提要卷三、四八ノ二九頁参照)

内令第七七八號

第三十三號海防艦
第三十五號海防艦
第三十九號海防艦
第五十六號海防艦
第八號輸送艦

右本籍ヲ横須賀鎮守府ト假定ス

驅逐艦	檜
同	楓
伊號第二百一潛水艦	
波號第一百一潛水艦	
波號第一百二潛水艦	
第三百三十二號海防艦	
第三百三十四號海防艦	

右本籍ヲ吳鎮守府ト假定ス

驅逐艦 檜

右本籍ヲ佐世保鎮守府ト假定ス

同 榎

右本籍ヲ舞鶴鎮守府ト假定ス

昭和十九年六月二十二日

海軍大臣

1677

<p>内令第七七五號 (後送分)          潜水隊編制中左ノ通改定セラル          昭和十九年六月二十日          海軍大臣          第十五潜水隊ノ項中「伊號第十六、」ノ下ニ「伊號第二十六、」ヲ加フ          (内令提要卷一、七〇頁参照)</p>	<p>内令第七七九號          艦艇類別等級別表中左ノ通改正ス          昭和十九年六月二十日          海軍大臣          驅逐艦、一等松型ノ項中「縦」ノ下ニ「樺、榎、楡、楓」ヲ加フ          潜水艦、一等伊三百五十一型ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ          伊二百一型 伊號第二百一          同二等ノ欄ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ          三等 波百一型 波號第百一、波號第百二</p>	<p>海防艦、第一號型ノ項中「第三十一號」ノ下ニ「第三十三號、第三十五號」ヲ、「第三十七號」ノ下ニ「第三十九號」ヲ、同第二號型ノ項中「第三十四號」ノ下ニ「第五十六號」ヲ、「第三百三十號」ノ下ニ「第三百三十二號、第三百三十四號」ヲ加フ</p>	<p>輸送艦、一等第一號型ノ項中「第七號」ノ下ニ「第八號」ヲ加フ          (内令提要卷三、三三頁参照)</p>	<p>内令第七八〇號          右本籍ヲ吳鎮守府ト定ム          昭和十九年六月二十二日          海軍大臣          第六十四號驅潛特務艇          第七十四號驅潛特務艇</p>	<p>内令第七八一號          昭和十八年内令第八百三十三號別表中左ノ通改正ス          昭和十九年六月二十三日          海軍大臣          佐伯防備隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第百五十六號(吳)」ノ次ニ「第百六十四號(吳)」ヲ、「第百六十七號(吳)」ノ次ニ「第百七十四號(吳)」ヲ加フ          (内令提要卷三、四八ノ二頁参照)</p>	<p>内令第七八二號          潜水隊編制中左ノ通改定セラル          昭和十九年六月二十三日          海軍大臣</p>
--	---	--	--	--	---	---

内令

九三七

1678

内 令

第三十四潜水隊ノ項中「呂號第四十五、」ノ下ニ「呂號第四十  
六、」ヲ加フ

(内令提要卷一、七〇頁参照)

九三八

1679



<p>内令第七八三號 右本籍ヲ横須賀鎮守府ト定ム 昭和十九年六月二十三日 海軍大臣</p> <p>第六十三號驅潛特務艇</p>	<p>内令第七八四號 昭和十八年内令第八百三十三號別表中左ノ通改正ス 昭和十九年六月二十三日 海軍大臣</p> <p>横須賀防備隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第五十九號(横)」ノ次ニ「第六十三號(横)」ヲ加フ (内令提要卷三、四八ノ二一頁参照)</p>	<p>内令第七八五號 (後送ス) 内令第七八六號 右佐世保鎮守府所管ト定メラル 昭和十九年六月二十四日 海軍大臣</p> <p>第三百三十一號特設輸送艦</p>	<p>内令第七八七號 右本籍ヲ横須賀鎮守府ト定メラル 第二號輸送艦</p>
<p>昭和十九年六月二十五日 海軍大臣</p>	<p>内令第七八八號 海軍工廠處務規程中左ノ通改正ス 昭和十九年六月二十六日 海軍大臣</p> <p>第八條中「但シ」ノ下ニ「吳海軍工廠砲煩部ニ在リテハ砲煩實驗部ノ所掌ニ屬スルモノヲ除キ」ヲ加フ 第十九條第二號中「實驗」ノ下ニ「及射表ノ造修」ヲ加フ (内令提要卷一、二九頁参照)</p>	<p>内令第七八九號 海軍工廠處務規程中左ノ通改正ス 昭和十九年六月二十六日 海軍大臣</p> <p>第九條ノ二中「光學兵器」ノ下ニ「及航海兵器」ヲ加フ 附則 本令ハ昭和十九年六月一日ヨリ之ヲ適用ス (内令提要卷一、三〇頁参照)</p>	<p>内令第七九〇號 右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定メラル 第三十號海防艦</p>

内令

九三九

1680

佐世保領守府在籍

第三十號 海防艦

右警備海防艦ト定メラル

昭和十九年六月二十六日

海 軍 大 臣

内令第七九一號

第九十八號 驅潛特務艇

右本籍ヲ吳領守府ト定ム

昭和十九年六月二十六日

海 軍 大 臣

内令第七九二號

昭和十八年内令第八百三十三號別表中左ノ通改正ス

昭和十九年六月二十六日

海 軍 大 臣

佐伯防備隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第九十七號(吳)」ノ次ニ  
「第九十八號(吳)」ヲ加フ

(内令提要卷三、四八ノ二一頁参照)



<p>内令第七九三號 伊號第三百七十二潜水艦 右本籍ヲ佐世保領守府ト定メラル 昭和十九年六月二十六日 海軍大臣</p>	<p>内令第七九四號 海防艦 日 振 右本籍ヲ佐世保領守府ト定メラル 佐世保領守府在籍 海防艦 日 振 右警備海防艦ト定メラル 昭和十九年六月二十七日 海軍大臣</p>	<p>内令第七九五號 驅逐艦 梅 右本籍ヲ横須賀領守府ト定メラル 昭和十九年六月二十八日 海軍大臣</p>	<p>内令第七九六號 海防艦 五百島 右本籍ヲ吳領守府ト定メラル</p>
<p>右警備海防艦ト定メラル 昭和十九年六月二十八日 海軍大臣</p> <p>吳領守府在籍 海防艦 五百島</p>	<p>内令第七九七號 (後送ス) 緊急戦備促進部規程左ノ通定ム 昭和十九年六月三十日 海軍大臣</p> <p>緊急戦備促進部規程 第一條 當分ノ開海軍省ニ緊急戦備促進部ヲ置ク 第二條 緊急戦備促進部ハ緊急戦備計畫ニ基キ關係各部ノ緊密ナル連絡調整ヲ圖リ各般ノ障碍ヲ除去シ以テ之方回滑迅速ナル實行ノ促進ニ任ズル所トス 第三條 緊急戦備促進部ニ部長、副部长、部員、幹事及幹事輔佐ヲ置ク其ノ組織別表ノ如シ 第四條 部長ハ部務ヲ總理ス 第五條 副部长ハ部長ヲ佐ケ部務ヲ整理ス 第六條 部員及幹事ハ議案ノ審議、連絡等ニ任ジ各常務機關ヲ通ジ審議決定事項ノ速ナル實行ノ促進ニ任ズルモノトス 第七條 主任幹事ハ部長ノ命ヲ承ケ部ニ關スル庶務事項ヲ掌理</p>	<p>内令第七九八號 緊急戦備促進部規程左ノ通定ム 昭和十九年六月三十日 海軍大臣</p>	

内 令

九四一

1682

ス		第八條 幹事輔佐ハ幹事ヲ輔佐ス	
(別表)			
部 長	副 部 長	部 員	幹 事
海軍省軍務局長	海軍省兵備局長	海軍省人事局長 海軍省教育局長 海軍省軍需局長 海軍艦政本部總務部長 海軍航空本部總務部長 海軍電波本部總務部長 海軍施設本部總務部長 海軍運輸本部長 海軍潜水艦本部長 軍令部第二部長	(主任)海軍省軍務局第一課長 海軍省軍務局第二、第三課長 海軍省兵備局第一、第二、第四課長 海軍省人事局第一、第三課長 海軍省教育局第一課長 海軍省軍需局第一、第二、第三課長 海軍艦政本部總務部第一課長 海軍航空本部總務部第一課長 海軍電波本部總務部第一課長
幹 事 輔 佐		考 備	
關係部局員中ヨリ必要ニ應ジ之ヲ命ズ		本表ノ外必要ニ應ジ部員及幹事ヲ命ズルコトアル	
海軍施設本部總務部第一課長 海軍運輸本部總務課長 海軍潜水艦部首席部員 軍令部第三、第四課長			



閉ノ状態ニアラシメ一目鎖錠シ非ザルコトヲ認知シ得ルモノトス

第十條 揚彈藥筒ノ上部取出口ニハ左ノ各號ノ要領ニ依リ鎖錠ヲ施スモノトス

一 下部供給口ガ直接彈火藥庫内ニアル場合ハ當該彈火藥庫所定ノ鎖錠ヲ施スモノトス

二 下部供給口ガ揚彈藥室ニ在リテ該揚彈藥室ト彈火藥庫間ノ出入口ニ當該彈火藥庫所定ノ鎖錠アル場合ハ第四種錠前ヲ施スモノトス

第十一條 彈庫ヨリ換裝室ニ揚ル揚彈筒ニハ彈庫又ハ揚彈室側ノミヨリ閉閉シ得ル蒸ヲ設ケ別ニ鎖錠ヲ施スヲ要セズ

第十二條 彈火藥庫ヨリ上部甲板ノ一般區劃ニ揚ル揚彈藥筒ノ上部取出口ニハ當該彈火藥庫所定ノ鎖錠ヲ施スモノトス

但シ第一種錠前裝備ノ艦船ニシテ揚彈藥筒下部供給口ニ彈藥庫側ノミヨリ閉閉シ得ル蓋アル場合ハ所定ノ鎖錠ヨリ一段低級ノモノヲ施スモノトス

第十三條 中「裝備スヘシ」ヲ「施スモノトス」ニ改ム

第十四條 各種錠前ニ對スル鎖ノ形式及定數左ノ如シ

第一種	錠ノ種類	型	式	定	數
第一種	錠ノ種類	一 異種庫ニ對シテハ相異リタル鎖型ヲ使用スルモノトス 二 同種庫ニ對シテハ一般ニ同一鎖型ヲ使用ス	常用ニ庫數ト同數 豫備ニ鎖型一種類ニ對シ一個		
第十五條	錠前及錠ハ其ノ用途ニ從ヒ砲術長、機雷長、水雷長、	第二種錠前裝備ノ揚彈藥筒ハ同一鎖型錠前二個ニ對シ鍵一個トス 但シ其ノ最少限ヲ二個トス 第三種錠前裝備ノ揚彈藥筒ノ錠前鍵ハ當該庫ノモノヲ兼用トシ錠ハ設ケズ	ルモ藥室ヲ格納スル砲火藥庫ニ對シテハ相異リタル鎖型ヲ使用スルモノトス	常用ニ庫數ト同數 豫備ニ鎖型一種類ニ對シ一個	通風管兼用 弁總數ノ六分ノ一 但シ其ノ最少限ヲ二個トス 注水諸兼用 弁總數ノ二分ノ一 但シ其ノ最少限ヲ二個トス 火藥罐回螺器格納兼用 一庫ニ付二個 彈火藥庫空所人孔用 一錠ニ付二個 檢濕器插入管 挿入管總數ノ四分ノ一 但シ其ノ最少限ヲ二個トス 彈火藥庫鍵箱 一錠ニ付二個

航海長又ハ飛行長主管トス

第十六條 彈火藥庫ニ關スル一切ノ鍵ハ之ヲ常用鍵及豫備鍵ニ分チ各同種ノ鎖鑰ヲ有スル同型ノ常用及豫備鎖箱内ニ格納スルモノトス

第十七條中「當直將校」ノ下ニ「又ハ副直將校」ヲ加フ

第十七條第一號中「後甲板若ハ後艦橋」ヲ「當直將校勤務位置附近」ニ改ム

第二十條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ狀況ニ依リ副直將校ヲシテ之ヲ實施セシムルコトヲ得

第二十一條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ狀況ニ依リ副直將校ヲシテ立會セシムルコトヲ得

第二十二條中「及航海長」ヲ「機雷長、航海長及飛行長」ニ改ム

第二十八條第一號(イ)中「當直將校」ヲ「當直將校狀況ニ依リ副直將校」ニ改ム

第二十八條第一號(ロ)中「航海士」ノ下ニ「機雷士、飛行士」ヲ、「掌信號長」ノ下ニ「掌機雷長、掌飛行長」ヲ加フ

第二十八條第二號(ロ)中「非常用鎖箱ノ場合ニ同ジ」ヲ「第一號「常用鎖箱(ロ)非常及特別ノ場合ニ同ジ」ニ改ム

第二十九條第一號中「(各其ノ科ニ屬スルモノニ限ル)」ヲ削リ

第二十九條第一號中「及水雷砲臺長」ヲ「潜雷砲臺長、機雷部指揮官、飛行隊長、整備部指揮官及兵器部指揮官」ニ改メ「掌信號長」ノ下ニ「掌機雷長、掌飛行長」ヲ加ヘ「航海科ニ屬スル」ヲ「航海科、機雷科、飛行科ニ屬スル將校」ニ改ム

第三十一條 彈火藥庫ヲ閉鎖スル際ニハ教練ノ場合ニハ砲臺長、水雷砲臺長、機雷部指揮官、整備部指揮官、兵器部指揮官狀況ニ依リ砲臺部附其ノ他ノ場合ニハ直接責任者ニ於テ廣内異狀有無ヲ檢シ閉鎖後之ヲ主管者ニ報告スベシ

第三十二條第三項ヲ左ノ如ク改ム

鍵ハ艦長ノ特令アル場合ノ外閉鎖後直之ヲ當直將校ニ還付スベシ

狀況ニ依リ副直將校ヲシテ之ヲ實施セシムルコトヲ得

第三十四條中「職工」ヲ「工員」ニ改ム

第四十條中「及水雷砲臺長」ヲ「水雷砲臺長、機雷部指揮官及兵器部指揮官」ニ、「及航海長」ヲ「機雷長、航海長及飛行長」ニ改ム

第四十九條第三號ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ鎖鑰ヲ彈火藥庫又ハ砲臺内ニ於テ實施スルモノニ在リテハ第二十九條ニ規定スル鍵使用有資格者ノ告知ニ依リ記入スルモノトス

(内令提要卷三、一三七頁参照)

内 令

九四五